熊大教育実践研究　第19号，153－158，2002

知的障害養護学校における総合的な学習の時間の実践

前田忠彦*・谷口紘八*・松元尚大**

A Practice of Period for Integrated Study in the School for Mentally Handicapped Children

Tadahiko MAEDA, Kouhachi TANIGUCHI and Hisahiro MATSUMOTO

1　はじめに

本校では，特色ある教育実践の一つとして平成10年度から「選択学習」を導入し，平成12年度は選択学習を「チャレンジ学習」と名称を変更し，実践的課題研究に取り組んでいる．チャレンジ学習は「自ら学び，自ら考える」という教育基調の転換をふまえ多様なニーズや個性を配慮しながら，生徒の興味・関心に基づく課題を自ら選択し，ゆとりの中でじっくりと学ぶことを通し，生活の自立と豊かさを高めようとするものである．これを総合的な学習の時間として位置づけ，週２コマで年間を通して実践している．

その中の一つのコースとして「ゴルフ」を設定している．ゴルフは，大人のスポーツという印象が深いが，方向を決めたり，遠くに飛ばしたり，力加減を調整しカップに入れるなど，色々な技術を使い楽しむスポーツである．と共に，非常に難しいスポーツのように思える．しかし，部分的に考えると，力一杯打ち遠くに飛んだ時の気持ちよさ，思ったとおりに打ってカップに入った時の喜びなど，自分の興味や技能に応じて楽しめる場面は多い．また，最近では海外は勿論，日本にもスタープレーヤーが生まれ，子供たちにとっても身近なスポーツとなってきている．また比較的に激しい運動ではなく，体力に自信のない人たちにも楽しめるものであると言える．本校の生徒にも，プロゴルファーの真似をしたり，同じ服装であることを喜んだり，またインターネットなどでゴルファーのページを見るなど，とても興味を持ってきている．

ゴルフコースの設定にあたっては，生徒の保護者からの要望を頂いた．このことから，生徒がプレーを楽しむことができるようになると，保護者と一緒にゴルフを楽しむことができるようになるのではと考え，さらに，色々な場面で保護者，特に父親の参加が促されるのではないかと思い初めて設定することにした．

この実践的課題研究は，ゴルフという課題を取り上げ，大略ゴルフのことは理解しているが実際の経験はない生徒と，少しの経験はある生徒が失敗や成功を繰り返しながら，自ら考え取り組んできたチャレンジ学習「ゴルフ」授業の事例研究報告である．

2　実践のねらいと方法

1）実践のねらい

子供たちが自ら考え選択し，決定しながら主体的に取り組むことができるようにする．

2）実践の方法

(1) 調査法　：調査法は，主に観察法と面接法．

(2) 指導場所：運動場（雨天：教室）
熊本中央ファミリーゴルフ場
（すべてショートホールで合計18ホールの1,260ヤード）

(3) 指導方法

指導時間と活動内容については表１に示すとおりである．指導にあたっては，生徒がつまずいた時や困難な場面でも，教師はできるだけヒントを少なくし（放任的指導法），何度も繰り返すこと（試行錯誤法）で自ら克服することを重要視して指導した．また，ゴルフクラブの選択からコースの設置，活動の内容など，子供たちが自分たちで選択し決定する機会を増やすよう注意して指導した．

(4) メンバーのゴルフの実態

メンバーのゴルフの実態については，表２に示すとおりである．

* 附属養護学校
** 保健体育

表1　指導時間と活動内容（1単位時間50分）

指導時間	1　2　3　4	5　6　7　8　9　10　11	12　13　14　15　16
活動内容	基本的な練習	ゲームを楽しむ	生徒が活動内容や課題を設定し取り組む

表2　メンバーのゴルフの実態について

メンバー	M君　ダウン症状　IQ=44	N君　広汎性発達障害　IQ=32
ゴルフの実態	・ゴルフについてのイメージは持っているが、実際にしたことはない。 ・4回に1回ぐらい球を飛ばすことができる。	・ゴルフはテレビなどでよく見ていて、実際に球を打ったこともある。 ・左右の手が離れた状態でクラブを握り、3回に1回ぐらい球を飛ばすことができる。

3　実践の経過

1）基本的な練習　5月9日～5月18日（4回）

(1) 活動内容

ゴルフボールは小さく当たりにくいことと，危険防止のため柔らかい野球ボール程度の大きさのボールを使った．また，飛んだ位置や目標の目印になるように，教師と共に旗を作り2回目から使用，4回目からはグランドゴルフの旗を使用した．雨の日は，教室内でパターの練習台を使い活動した．ゴルフクラブはPW（ピッチングウェッジ）とパターを使用し，危険防止のため教師が管理した．クラブは，使う時に生徒が選択して使用し，打ち終えたら教師に返すようにした．

(2) 生徒の様子

〈N君〉

力一杯打とうとして，なかなかボールに当たらずイライラした姿も見られた．しかし，『もう1回』と教師が励まし，N君も気を取り直し何度か挑戦し，球が飛ぶととても喜んでいた．M君と飛んだ距離を競うようにしたが，どちらが遠くに飛んだのかなかなか理解できないようであった．しかし，教師が『N君の勝ち』と言うと帽子を脱ぎプロゴルファーの真似をし『次は何番ホール？』と教師に尋ね，とても意欲的だった．

クラブはパターを使ったりPWを使ったりし，自分が上手く打てた方を次に打つ時も選択していた．また，3回目の活動でパターの練習台を使って活動した時も，PWを選択することもあり，その場に適したものではなかった．

〈M君〉

クラブは，左右の手が逆になることもあるがスムーズに振ることができ，球に当たるとよく飛んでいた．何度か繰り返し打っていると，『こっちだよ』と目標を見るように声を掛けることで，目標に向かって足の向きを調整する様子も見られた．パターの練習台を使っての活動では，『これいいね～』ととても意欲的に取り組むことができた．しかし，遠くに飛ばす活動では，N君のペースに合わせている様子があり，パターの練習台を使っての活動ほど意欲は感じられなかった．

クラブは，外での活動の時にパターとPWの両方を使い，パターの練習台での活動ではパターだけを使っていた．

2）ゲームを楽しむ　5月22日～6月8日（計画7回　ゲーム5回　雨天のため室内でビデオとパター練習2回）

(1) 活動内容

グランドゴルフの旗を使い，少ない回数で枠の中に入れた方が勝ちとするゲームをした．

クラブは，前回と同様に生徒が選択して使用するようにした．4回目からゴルフボールを使用して活動した．危険がないよう教師と生徒一人が，1ホールずつ交替してするようにした．打った回数が分かるように，スコアカードを教師と共に作り使用した．

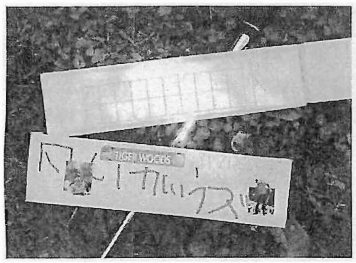


図１　スコアカード

スコアカード（図１）は１球打つごとに「○」をつけていくものである．３回目の活動は，一日チャレンジ学習に向けてゴルフのビデオを見た．雨の日は，パターの練習台を使って活動した．

(2) 生徒の様子

〈N君〉

今までの取り組みが，力一杯遠くに飛ばすことが中心だったので，最後に枠に入れる時に力が強すぎて枠を通り越してしまうことがよくあった．教師が旗の場所を見るように声を掛けると，意識して弱めに打つことができた．クラブの選択は，今までと同様に打つ時に，どちらかを選択するようにしたが，草が茂っている所でもパターを使用したり，30cmぐらいの距離でもPWを使い上手く入らないことがあった．クラブの選択では，教師は生徒の選択を尊重し使用させたが，失敗したり上手く飛ばなかった場合には，教師のボールを同じ場所に置き『こっちで打ってみて』と声を掛け，両方のクラブで打つ機会を作るようにした．

３回目にビデオを見ると，知っているプロゴルファーが出てくると非常に喜び，教師が『ゴルフ場に行ってゴルフをしたい？』と尋ねると，『はい，行きます』と言い，一日チャレンジ学習で行くことを話すと，とても喜んで楽しみにしていた．

一日チャレンジ学習では，本物のゴルフコースということでいつも以上にやる気を見せ，保護者（父親）と一緒にプレーを楽しんでいた．クラブは学校とは違い，一人２本（パター・PW）を持つことになった．今まで教師が管理していたので，N君はコースの途中に置き忘れてきたりしてなかなか管理できなかった．

〈M君〉

N君と同様，枠までの距離に合わせて打つ力を調整することが難しいようだった．教師は打つ前に『弱く打つ？強く打つ？』と声を掛け，M君自身が考えるよう促した．すると，回を重ねるにつれ力の加減が上手くなり，枠に入るまでの回数も少なくなってきた．技術が上がると，勝ち負けにこだわるようになり教師やN君が枠に入れようとすると『はずせ，はずせ』と声を出していた．

３回目でビデオを見ていると，N君とは逆にビデオにはあまり興味を示さず，早くゴルフをしたいようだった．そこで，ビデオを見るかゴルフをするかN君と相談し，ビデオは最後まで見ずに，途中からゴルフをすることになった．

一日チャレンジ学習では，保護者（母親）と一緒にプレーを楽しんだ．初めてのコースということもあり，力加減が難しいようで，グリーンにのっても力が強すぎて，グリーンから落ちてしまうようなこともあった．しかし，次第に感覚が掴めてきたようで，声を掛けなくても，遠くに打つところでは力一杯打ち，カップが近くなると優しく打つという調整ができるようになっていた．

３）生徒が活動内容や，課題を設定して取り組む．

６月20日～７月６日（５回）

(1) 活動内容

課題を設定するために，活動の初めには今日頑張ることは何か一人ずつ尋ね，終わりには今日のゴルフはどうだったか尋ねるようにした．また，自分のプレーがどういうもので何が得意で何が苦手なのかを考えやすいように，活動中に撮ったビデオを見るようにした．

クラブは，今までと違いパターとPWの２本を生徒自身で管理するようにした．

２回目，４回目には，芝刈り機を使いゴルフコース作りをした．

・ゴルフコース作りの過程

N君が茂みの中にボールを入れ２個紛失したことがきっかけで，２回目には草刈りをすることになった．４回目に，教師が時間前に草刈りをしていると，二人とも『草刈りがしたい』と言い外に出てきた．そこでゴルフコース作りをすることになった．穴もあった方がいいということで，穴も掘りゴルフ場に近いグリーンができあがった．（図２に示す）

(2) 生徒の様子

〈N君〉

・１回目：今日頑張ることは何かと尋ねると，「上に打つ（丸山茂樹みたいに）」と自らの課題を設定した．この日も，クラブの選択は不適切なこともあったが，上手くいかなかった時には同じ場所

図2　ゴルフコース作り

にボールを置き，違うクラブでもう一度打つことを繰り返しするようにした．

運動場の草が伸び，ゴルフをするには厳しい状態であっこともあり，N君がボールを2個紛失してしまった．このことがあり，活動の終わりには『今度は草を刈ろう』ということになった．

・2回目：前回決めたように草刈りをした．運動場にゴルフコースができあがると，とても意欲的で小雨が降る中，教師の教室でしようという誘いにも耳を傾けずにゴルフを楽しんでいた．

終了後今日のプレーについて尋ねると，『弱く打ったので入った』と自分のプレーについて感想を持っていた．

・3回目：今日頑張ることを尋ねると，『弱く打つ』と前回の感想をふまえた課題を自ら設定した．クラブの選択が，少しずつ場所に適したものになってきていた．1打目はPW，グリーンにのるとパターに持ち替えて打つようなことが多くなってきた．

・4回目：草刈りをしさらに穴を掘りカップを作ると，『ここから始める』と打ち始める場所まで自分で決めるようになった．

クラブの選択が不適切なこともほとんどなく，プレー自体の質も上がってきた．グリーン上の旗も自らはずしたり元に戻したりするようになった．

・5回目：『ゆっくり打つ』という課題を設定し取り組んだ．

クラブの選択が確実なものになってきた．さらに道具の準備や片づけまでM君と協力し，最初から最後まで自分たちでできた．

〈M君〉

・1回目：今日は何を頑張るか尋ねると，『手をまっすぐにする』という課題を自ら設定した．これは，基本的な練習をしている時に『手がまっすぐなってて良いな』と教師が褒めたことを覚えていて，この課題になったのだろうと推察した．

・2回目：草刈り機に興味を示し，エンジンをかけることにも挑戦した．何度やってもエンジンがかからずにいたが，あきらめず繰り返し挑戦していた．N君と同様に自分たちで作ったゴルフコースでいつも以上に意欲的だった．

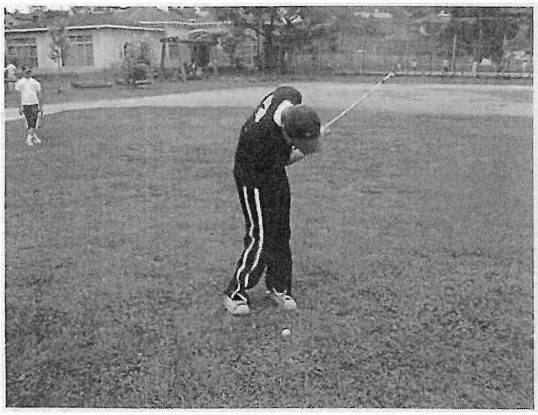
・3回目：『強くならないように』という課題を設定した．活動の終わりに，今日はどうだったか尋ねると『強く打ったり，弱く打ったりした』と自らのプレーを振り返っていた．

パターが上手になり，打つ方向も正確になってきた．

・4回目：草刈りをして穴を掘りカップを作ると，さっそくプレーを始めた．

この日は，草刈りをするという突然の内容変更で課題を尋ねる時間がなかった．プレー中に，1打目が上手く飛びカップ近くまで球が行くと，『オー！』と声を出し喜んでいた．

・5回目：『強くならないように』という課題を設



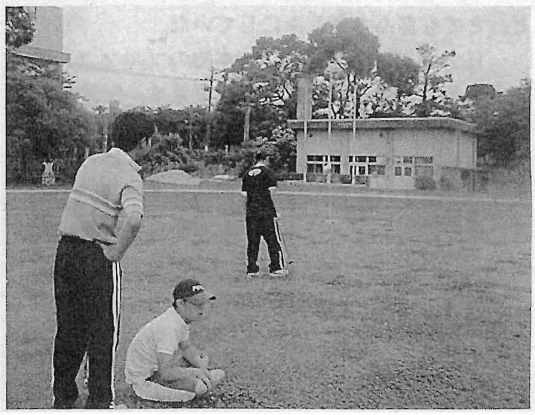


図3　学校運動場でのチャレンジ学習の様子

定した．課題どおり，パターの技術が向上し1.5m位の長さも入れることが3回程あった．準備や片づけもN君と協力して行い，最初から最後まで自分たちでできた．

4　考察とまとめ

1）チャレンジ学習「ゴルフ」実践授業について

チャレンジ学習「ゴルフ」に取り組むにあたって，活動のねらいを「自ら考え選択し，決定しながら主体的に取り組むことができる」とした．ゴルフの活動の中で子供たちが選択する場面をとおして，子供たちが自ら考える機会を，準備から片づけまでより多く作るようにした．（表3に示す）そうすることにより，子供たちが主体的に取り組み自らの力で学び，身に付けていくことができるようになったと推察される．

N君のクラブの選択の変容がその表れである．初めは，自分の好きなクラブを選択し，そのクラブで好きなプロゴルファーの真似をして喜んでいた．そして次は，上手く球が飛んだクラブを選択するようになったが，状況に応じたものではなかった．そして，状況を考えてその場に応じた打ちやすいクラブを自ら考え選ぶようになった．ここで，状況に応じてクラブを選択することをねらいとするならば，教師が分かりやすいように説明し「ここではこれを使いなさい」と教えることが一番の近道であることは明らかである．しかし，N君が自ら考え身に付けたものではない．失敗や成功を数多く経験する中で「こうすれば上手くいくんだ」とN君自身が考え，それが上手くいった時の喜びは，教えられてできた時のそれよりも数倍の喜びではないだろうか．その喜びが，活動に取り組む意欲となり，N君の主体的な姿となったのだろう．

M君は，N君とは違いプロゴルファーへの憧れよりもゴルフ自体に興味があった．初めは，球を遠くに飛ばすことよりも穴に入れることを喜び，飛んだ距離を競っても，パターの練習台を使っての活動のように意欲的ではなかった．自分で考えた課題の中でもパターに関していることが多く，1打目に関しては課題意識が低かったようだ．しかし，1打目からホールインするまでの過程を何度も繰り返すことで，1打目にも少しずつ課題意識が芽生えたようだ．生徒が活動内容や，課題を設定して取り組む実践の4回目に，1打目がカップに近づいた時，『オー！』という歓声をあげたことがそれを表している．これを聞いた時には教師自身，歓声をあげたことに驚いたほどである．いろんな選択の場面で，M君の主体性を大切にし，M君が意欲を持って取り組み，その意欲で失敗を乗り越え成功を味わい，技術が向上したことで，また新たな課題を自ら設定し挑戦することができたのではないかと考える．

つまり，自ら考えて選択し決定することは，選択し決定すること自体が主体性を持ち，さらにその選択し決定することによって意欲が芽生える．また，自ら考えて選択し決定したことで失敗しても，やらされた時の失敗よりも明らかに前向きな気持ちで失敗を受け止めることができると考える．そして，その失敗を自らの意欲で乗り越え，成功に向かっていくのではないだろうか．自ら考え選択し決定しながら身に付けたことは，教えられて身に付けたものと違い，試行錯誤法的で身に付けるまでに時間はかかる．しかし，本実践の中での生徒の様子から考えると，自ら考え選択し決定しながら身に付けたことは，教えられたものでは得ることができない喜びがあり，また自信を持つことができると考える．

表3　選択・考え場面

準備	1．活動内容の選択
	2．どんな道具が必要か考える
	3．準備する道具の選択
	4．使用するボールの選択
	5．使用するクラブの選択
実践	6．打ち始める場所の選択
	7．旗を置く場所（ゴールの場所）の選択
	8．使用するクラブの選択
	9．力加減について考える
片づけ	10．片づけ方を考える
	11．片づける道具の選択
	12．次回にしたいことを考える。

2）今後の課題

ゴルフに取り組むにあたって大切にしてきたことは「自ら選択する」ということである．今回それができたのは，ゴルフに取り組むメンバーが二人という少人数であったことがまずあげられる．それぞれの意見や考えを大幅に変更することなく活動に取り組むことができた．人数が増えた場合に子供たちの選択をどのように保障していくかが今後の課題としてあげられる．

また，1日チャレンジ学習で熊本中央ファミリーゴルフ場に行き，時間いっぱいゴルフに没頭できたことも，生徒の興味関心をさらに深め，以後の活動に生かすことができたので，今後もこのような機会を設けるようにしたい．（図4に示す）

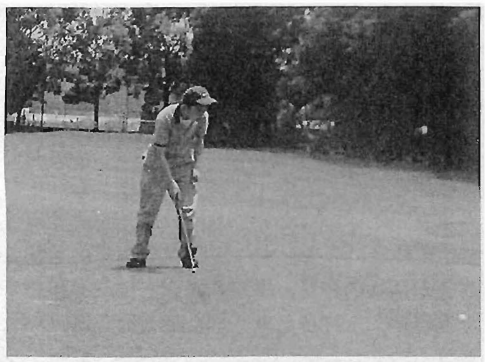


図4　熊本中央ファミリーゴルフ場での様子

参考文献

1）宮崎直男編著：知的障害児への教育はどう変わるか　養護学校編　明治図書　平成12年10月

2）文部省：盲学校，聾学校及び養護学校　教育要領・学習指導要領　平成11年3月

3）文部省：盲学校，聾学校及び養護学校学習指導要領解説－各教科，道徳及び特別活動　平成12年3月

4）文部省：盲学校，聾学校及び養護学校学習指導要領解説－総則等編」文部省　平成12年3月